

2016年度PMからのメッセージ

氏名・所属: 首藤 一幸 (東京工業大学 大学院情報理工学研究科 准教授)



略歴:

1998年 早稲田大学 助手
2001年 早稲田大学 大学院理工学研究科 博士後期課程 修了
2001年 産業技術総合研究所 研究員
2006年 ウタゴエ(株) 取締役最高技術責任者
2008年12月 東京工業大学 大学院情報理工学研究科 准教授

専門分野:

基盤的／先端的なソフトウェア
分散システム
peer-to-peer
言語処理系

メッセージ:

私自身、未踏のOBで、スーパークリエイターです。それ以前からもずっと未踏を見てきました。

この20年くらいで、インターネットやその上のソフトウェアによってつながった個人々々が、かつてなかったほど大きな力を得ました。これから10年、30年と、それはもともとと進んで、社会のうちで、個人間のネットワークによって動く部分はどんどん広がっていきます。

未踏は個人々々の情熱と才覚を支援する枠組です。公的な事業としてはまだ珍しいものですが、固定的な組織ではなくてネットワークの中の個人を支援する事業です。特に、2008年度からは未踏IT人材発掘・育成事業と名前が変わり、2011年度からはそれまでの未踏ユースのやり方に一本化されたことで、モノはもちろん作るにしても、その過程でとがった人の発掘・支援を行うのだ、という方向がよりはっきりしました。つまりは、確実さよりは、ものすごくとがった成果、というよりむしろ、とがった人がある割合で出ることを狙っています。

人がなかなかやらない、できないことをやり遂げるために必要なものは、何より、情熱です。「好きこそものの上手なれ」です。未踏への提案は、何かしらのソフトウェア開発について、これは面白い、すごい、という気持ちを抱くところから始まります。情熱をもって取り組んで、自慢できるものを作ってください。成果が出たら、隠していてもしかたないので、何かしらの形で世に問うてもらいます。日本中、世界中に向かって「すごいでしょ」と自慢して、名を上げてください。PM一同、サポートは惜しみません。

私自身の得意分野は、OSやミドルウェア、プログラミング言語処理系といった基盤的なソフトウェア、中でも分散システムです。直観的なデモが難しくあまり派手さのないこういった分野に取り組む人達を応援したい気持ちを持っています。しかし前職のベンチャー企業では、ウェブ上に出すサービスのコンセプト作りや設計もしていましたし、採択対象の分野は限定しません。

審査基準:

- 情熱
自分が提案するテーマを愛していないことには始まりません。
- 期待感
こいつは何かやってくれる、と感じさせてください。そう感じる理由はいろいろあります。高い技術力、人を巻き込む力、あっと驚かせる言説、緻密な論理構成など。そのどれもが合格点であるよりは、ある一点が特別素晴らしいことの方に価値があります。それを示すもの、例えば作ったソフトウェアなどは、必須ではないにせよ、あるに越したことはありません。また、期待感をあおっておいて尻すぼみとなってしまったのでは、これからの長い人生、続きませんから、醸し出した期待感に応えるだけの成果をいつか上げることは必要です。
- インパクト
月並ですが、狙う成果が人に与えるインパクトは大きいに越したことはありません。人類がまだ知らないことを示すという研究的な成果でもいいですし、便利な道具を大勢に提供するといった成果でもいいです。また、PMの側も、当人が気づいていないインパクトを掘り出す努力をします。
- 現実味
10年計画のうちの最初の1年としてここまで完成させる、という提案はありますが、実現不可能に思われるものを採択することは難しいです。